

佐々木春夫 はつき 國學者、歌人。文政元年十月十二日攝津國玉造生れ、
 明治二十一年十一月二十七日歿（二八八—八八）。講義典、初名美綱、幼
 名松次郎、繼大郎、通稱萬屋小兵衛、源三、太郎、號三魚、東江、梅
 垣内、槐園、濱木綿園、織山、菅舎、鶴里、名越園隱士、源春夫。大
 鹽中齋の業を受け、小林元雄、加納謙平の師事した。文政四年諸平の
 後を襲ぎ和歌山藩國學所總裁となる。鈴木重胤、近藤若樹の親父深く、
 萩原廣道等學者を扶掖してその業を成さしめた。また伴林光平等も士
 の援護を留り、文久二年大誅組の大和義舉には兵糧方を負擔、且つ
 金品を贈つて軍用に使つてゐた。特に光平との關係密ならざることのが
 もり、光平自筆の稿本類の多くが佐々木家へ傳はり、就中「南山踏雲
 録」の自筆稿本を含むといふ。明治初年歌道御用掛の内命を受けると、
 箱詰の故を以て辭す。

『菅舎歌集』全二冊（本間良三郎編、大正十三年七月二十日大阪・佐
 佐木計次郎刊）がある。

